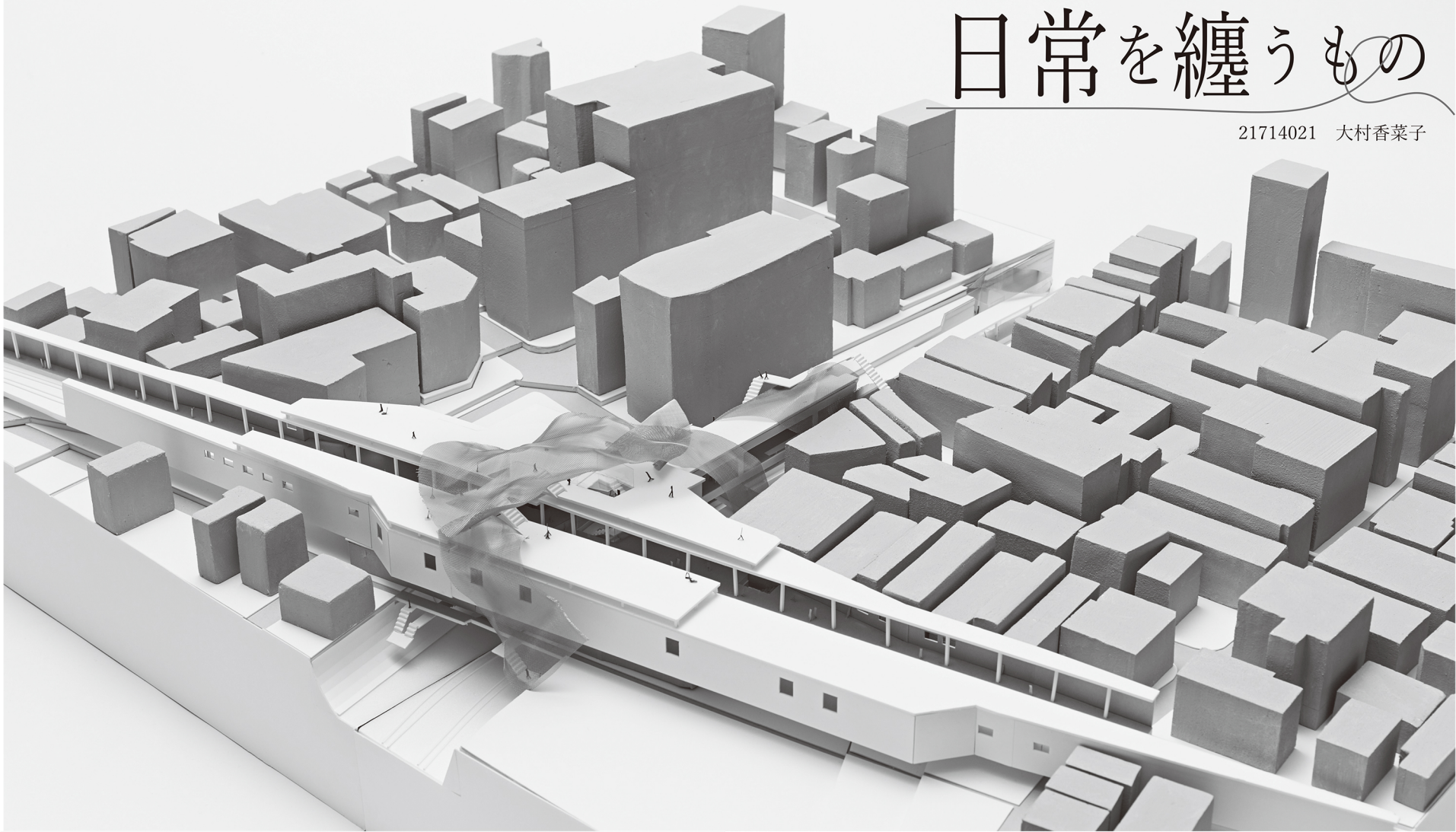


日常を纏うもの

21714021 大村香菜子

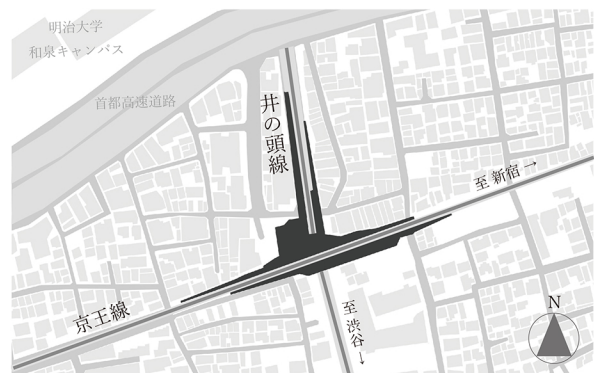
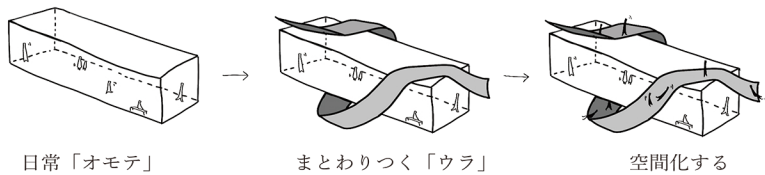


□ コンセプト

□ 計画場所… 明大前駅 東京都世田谷区松原1丁目36

「裏と表を体感する空間」

日常的に利用する「オモテ」の空間には、纏わりつくように「ウラ」が存在している。「ウラ」の空間を利用することで、ものごとを多角的に見る視点を持ち、ウラの魅力に気づくことができる空間を計画する。



□ 乗り入れ路線

- 京王線
- 井の頭線

- ・乗換駅として多くの人が時間を意識しながら利用している。
- ・学生や若い夫婦などが多い。
- ・駅と平行に商店街が通っていることもあり、常に駅周辺を多くの人が歩いている。

□ 役割の異なる3つのウラ空間

明大前駅にまとわりつくように、それぞれ役割の異なる3つのウラ空間を計画する。

屋根の「ウラ」

外（オモテ）にウラ空間を計画し、視点による印象の違いに気づく

連絡通路の「ウラ」

人が行き交う改札階の連絡通路をウラから見ることで、日常を客観視する。

線路の「ウラ」

1つの空間の中で「ウラ」と「オモテ」を体感する。



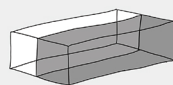
屋根の上は開放感のある外（オモテ）である。



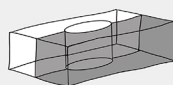
駅を利用する人にとっては駅の中が「オモテ」屋根の上は「ウラ」



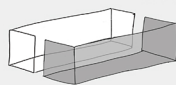
空間化することで、「ウラ」と「オモテ」の視点が変わる



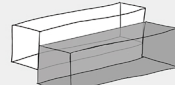
オモテとウラは交わることがなくお互いに見えない



境界に穴をあけたり

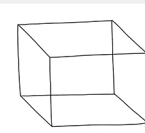


隙間を作り壁をなくしたり

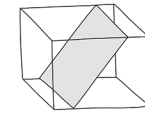


ずらすことで

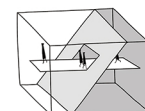
交わらずにお互いを感じる事ができる



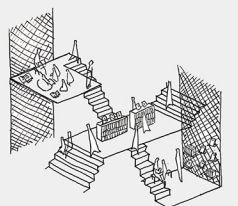
1つの空間に



ナナメの壁を挿入し

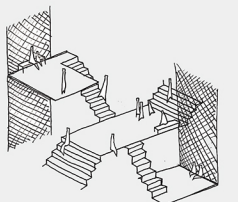


「ウラ」と「オモテ」をつくる



■ 休日（情報発信するオモテ）

- ・週末ごとにイベントを開催する（移動図書館やフードフェスなど）



■ 平日（喧騒から逃れるウラ）

- ・昼休憩にランチを食べる
- ・待ち合わせの時間をつぶす